

9月定例記者会見会議録

平成 30 年 9 月 5 日（水）午後 3 時～

市役所 2 階 第 3 会議室

1. 市長からの発表

昨日は、台風 21 号が四国・近畿に上陸しました。関西地方を中心に人的被害や建物被害が出ています。被災された全ての方に心からお見舞い申し上げるとともに、早急な復旧を願います。

伊賀市には、昼過ぎに最接近しました。午前 10 時に、5,751 世帯、13,561 人へ避難準備、高齢者等避難開始を発令し、57 人の方が小学校などへ避難しました。交通機関の運休や停電の発生によりご不便を感じた方も多かったと思います。

また、昨日、朝 11 時頃から行方不明になっていた 90 代女性は、本日早朝からの捜索により無事発見されました。捜索活動にご協力いただいた皆さんにお礼申し上げます。

本日の私からの発表は、3 つあります。

まず、資料 No. 1 の「災害時における医療救護活動に関する協定調印式について」です。

9 月 6 日（木）、一般社団法人 伊賀医師会との災害時における医療救護活動に関する協定について、調印式を行います。

この協定は、災害時に円滑な医療救護活動を行うためのものであり、医師の派遣や医療救護の業務等を取りまとめた協定です。

南海トラフ巨大地震などが危惧される中、災害時の医療救護活動は必須となり、迅速に対応していく必要があるため、今回の協定により災害時でも安心して医療が受けられる体制を確保できるよう取り組みを進めていきます。本協定を締結し、災害時に役立てていきたいと考えています。

つづいて、資料 No. 2 の「伊賀市平和の集いについて」です。

日清・日露戦争から太平洋戦争に至る戦争で亡くなられた戦没者の追悼と、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代へ伝えていくため、伊賀市平和の集いを開催します。

第 1 部では伊賀市戦没者追悼式を行い、第 2 部では「未来につなげよう 平和への願い」と題し、非核平和推進中学生広島派遣団から派遣の報告や、桜丘中学・高校からの取り組み発表、また若くして戦死した作者による詩の朗読を行います。

市内の中学生、高校生がさまざまな形で学んできたことや感じたことなどを

聞き、平和について市民の皆さんとともに考える機会としたいと思います。

9月22日 土曜日 午後1時30分から、伊賀市文化会館にて行います。

つづいて、資料No.3の「第35回上野城薪能の開催について」です。

薪能は、毎年9月から11月に開催されるお城まつりの行事の1つとして、昭和59年から行われており、今年で35回目を迎える上野城薪能を開催します。

前半の狂言では、蝸牛（かたつむり）になりすました山伏と、それを信じた太郎冠者（たろうかじゃ）の、囃子物のリズムに戯れが面白い「蝸牛（かぎゅう）」が演じられます。

また後半の能では、曽我兄弟の敵討ちを通して親子愛・兄弟愛を描いた、「小袖曽我（こそでそが）」という演目が披露されます。

会場には、今年もお茶席を用意しています。

チラシは、伊賀市役所本庁1階、ハイトピア伊賀1階観光案内所および上野公園入り口前の観光案内所などの市内各所に設置しています。

当日は、午後6時に開演予定です。お城を背景にして、薪の灯りに照らされる幻想的な世界をお楽しみください。

また当日は、この素晴らしい伝統文化を継承していくために、募金箱を設置します。皆様のご協力をお願いします。

私からの発表は以上です。

2. 9月の主な行事予定

(1) 2018年9月 「じんけん」パネル展・・・(資料No.4)

日 時 9月3日(月)～27日(木)

午前8時30分～午後5時(平日のみ)

※9月11日(火)・18日(火)は午後7時30分まで延長

場 所 寺田教育集会所 第1学習室

内 容 「差別と文化」

主催者 人権生活環境部 寺田市民館

(2) いがまち人権センターパネル展・・・(資料No.5)

日 時 9月4日(火)～27日(木)

午前9時～午後5時(平日のみ)

※9月6日(木)・13日(木)は午後7時30分まで延長

場 所 いがまち人権センターホール

内 容 「NO! パワハラ」

主催者 人権生活環境部 いがまち人権センター

(3) 子育て広場「にんにんパーク」イベント開催について・・・(資料No.6)

日 時 9月9日(日)・23日(日)・10月14日(日)

午 前 午前10時～午前11時30分

場 所 上野南公園「にんにんパーク」内伊賀市ゆめが丘七丁目13番地

内 容 9月9日(日)「にんにんパークで体を動かそう」

9月23日(日)「とんぼのメガネを作ろう」

10月14日(日)「牛乳パックでハロウィンバッグを作ろう」

主催者 健康福祉部 こども未来課

(4) 伊賀FCくノ一市民感謝 DAY 開催について・・・(資料No.7)

日 時 10月7日(日)午後1時キックオフ

なでしこリーグ2部(第15節):

伊賀FCくノ一対スフィード世田谷FC

場 所 上野運動公園競技場

内 容 伊賀市在住の方、または通勤・通学の方は免許証や社員証等の
証明書を提示すると、試合を無料で観戦することができます。

(通常大人ひとり当日チケット1,000円、前売り700円)

伊賀FCくノ一は、伊賀市の観光大使であり市民球団です。

主催者 特定非営利活動法人 伊賀フットボールクラブくノ一

(企画振興部 スポーツ振興課)

3. その他

(1) 主な質疑応答

(伊賀～京都高速バスの廃止について)

記 者：伊賀と京都を結ぶ高速バスの廃止が新聞報道されました。元々は、伊賀市が働きかけて三重交通が動き、最終的に決めたのは民間会社である三重交通でしょうが、伊賀市の働きかけで運行が始まったバスが、僅か約2年半で廃止になってしまいます。同じような津と京都を結んでいるバスと比べても格段に乗客が少ない。当然、三重交通の民間企業の努力も必要であったと思いますが、伊賀市として努力不足であった点は何か、市長がお感じになっている点はございますか。

市 長：伊賀市としては、尽くすべきことはしたと思っております。三重交通にも改善点として具体的に出発・到着時間についても申し上げ

げたこともあります。旅行商品の発売もお考えいただきたいと申し上げたこともあります。又、途中の駅の停車についても申し上げたこともあります。私どもができることは、色々提言を申し上げたということだと思っております。

ただ、折角、この伊賀と京都を結ぶこととは、そもそも何であったかということ、インバンウドで外国から来られた方をより便利に来ていただくということでした。その辺は、企業としてのご認識が形になって進めていただけたのか、少し残念に思います。そういう意味で、私がもし経営者であれば、すべきことは沢山あったらと思いますし、また成果があったのではないかと考えております。これまで運行していただいたことには感謝を申し上げたいと思います。

記 者：残念ながらハズは廃止になりますが、京都という所に対して伊賀市が観光面などで重視していく姿勢は変わらないということですか。

市 長：忍者観光の聖地としてのバリューはあるはずです。一層のアピールと様々な手段を講じていけるようにしたいと思っています。

（国会議員の発言について）

記 者：ＬＧＢＴの関連の件ですが、２、３日前の新聞の全国版のページで「生産性がない・・・」ということをおっしゃった自民党の杉田水脈衆議院議員に対して、ＬＧＢＴと呼ばれる人たちの家族や友人などがつくる団体が２万数人だったと思いますが、ものすごい数の署名を集め、謝罪会見を求める書面を出したようです。杉田議員の事務所は応じるつもりはないようですが、市長としては改めて杉田議員の発言、及び謝罪会見をすべきかどうかについて、ＬＧＢＴ問題に力を入れている市長として何かございますか。

市 長：自民党の中では、ＬＧＢＴに関する法案をまとめて出そうかという動きもある中で、そうした事を述べられるというのは大変残念であります。これは政党など関係なく、人権ということであり、多様性のある社会というものが誰にとっても住みやすいわけです。そうした事を実現することは、誰も賛成とか反対というものではないと思います。謝罪という以前にしっかりと勉強していただきたいと思います。

記 者：しっかり勉強して、あのようなことを雑誌に書かれた杉田議員には、説明してほしいということですか。

市 長：しっかり勉強して、その成果を発表していただきたいです。
反対されている中には、「家族制度が崩壊する」、「伝統的な文化が・・・」というようなことをおっしゃっています。しかし、よくよく振り返ってみたら、日本の文化というのは、もっと寛容なもっと幅広い中で生きてきたわけであり、おそらく明治維新後の西洋近代文明が入った時、キリスト・クリスチャニティというような中から、そうしたものは許されないということが広がっていったのかな、日本本来の文化にはそんなことはなかったと思います。

(障害者雇用について)

記 者：最近、社会問題にもなっている障害者雇用に関してですが、伊賀市を調べたところ、法的基準は満たしていることを確認させてもらいました。

ただ、満たしているからこそ、あえて申し上げれば、ぎりぎりですよね。今後、障害者の方や多様性のある方の採用については、単に数字を守れば良いのか、或いは一層多様な方に活躍してもらう場として積極的にいくべきなのか、市長はどのような見解ですか。

市 長：何パーセントが良い悪い以前に、人それぞれが持つ可能性と能力がしっかりと活かされるような雇用の形が大事です。そういう社会になるのが一番良いのではないかと思います。

記 者：単にパーセントを満たすだけでなく、仮に障がいのある人が市で働きたいという人で、能力があると判断されればパーセントと関わらず、採用者率は上がるということですね。

市 長：何パーセントと基準をクリアしているから良いということではないと思います。